

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 仮説1について

児童アンケートの「英語の時間に、進んでチャンツやゲームをしたり話したりしている」によると、12月の段階で、96.1%の児童が「とても」あるいは「だいたい」と回答し、5月と比較しても5.1%の伸びが見られる（資料23）。

また、「進んで友達と関わり、話したりゲームをしたりしている」についても、12月の段階で「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が92.2%おり、5月と比較しても6.2%の伸びが見られる（資料24）。

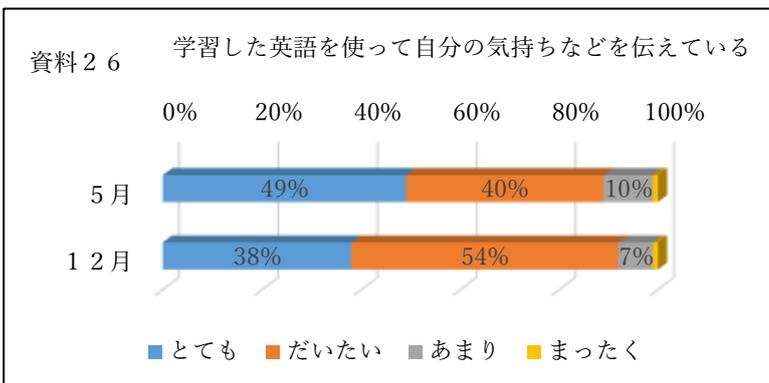
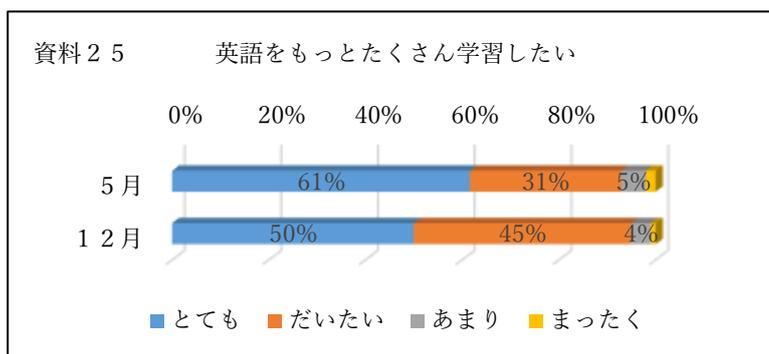
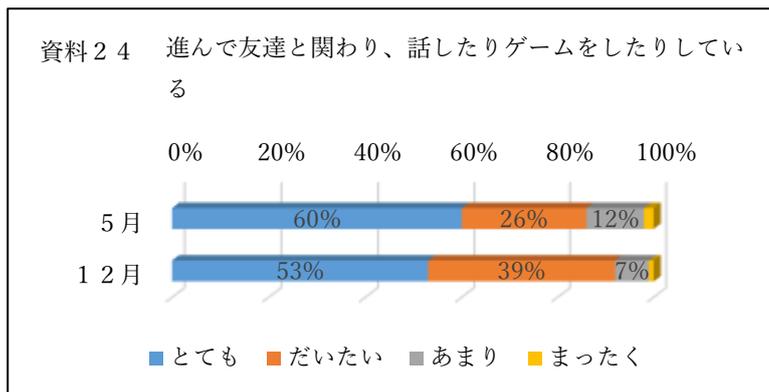
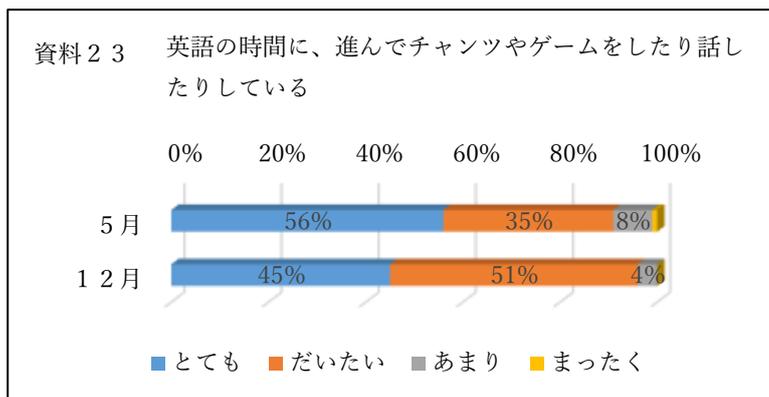
このように、「SMARTな授業の実践」を通して「考えを伝え合う活動を大切にした学習づくり」を行うことで、児童が進んでコミュニケーションを図ろうとしているのがうかがえる。

(2) 仮説2について

「英語をもっと学習したい」かどうかの回答状況を見ると、12月の段階で、「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が95.3%おり、5月と比較しても3.3%の伸びがうかがえた（資料25）。

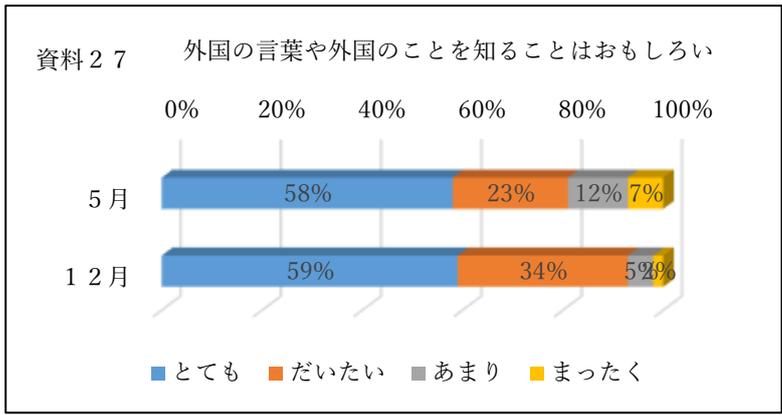
また、「学習した英語を使って自分の気持ちなどを伝えている」の項目については、12月の段階で、「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が91.5%おり、5月と比較しても2.5%の伸びが見られるのが分かる（資料26）。

一方、「外国の言葉や外国のことを知ることはおもしろい」については、12月の段



階で、「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が 93.8%おり、5月と比較しても 12.8%と、大きく伸びているのが分かる（資料 2 7）。

このように、「他国への興味・関心を高める環境づくり」を行うことで、児童の英語に対する関心が高まり、自国以外の言葉やくらしに目を向けている児童が明らかに増えていると言える。



2 課題と今後の志向

児童アンケートの「学習やいろいろな活動で、やる気を持って参加したり、進んで行動したりしている」について見ると、12月の段階で、「とても」あるいは「だいたい」と回答した児童が 97.7%おり、5月と比較しても 9.7%も伸びている（資料 2 8）。また、「進んで自分の意見を発表している」児童の割合（資料 2 9）、さらに、「自分の考えや気持ちを大きい声で分かりやすく伝えている」児童の割合（資料 3 0）について明らかに伸びが見られることから、英語で学習したことが他教科において積極的な行動や、進んでコミュニケーションをとろうとするなど、児童の自信につながっているのがうかがえる。

しかしながら、10%以上の児童が「あまり」「まったく」と回答しているように、コミュニケーション力について個人差や学年差が見られる。コミュニケーション力が学級集団の質と大きく関わっている以上、その質をいかに高めるか、また、クラスルームイングリッシュを増やし、英語にいかに慣れさせるかが今後の課題である。

